

東成区の昭和 やぶにらみ日記

絵と文・柳たかを

貧困

1970～80年代、右肩上がりの経済成長を経て90年代はじめにバブルがはじけ、追い討ちをかけるように起きた1995年1月17日・阪神淡路大震災。

夜明け前の時刻で経験したことのない揺れ、大阪市内で就寝していた自分の足元にあった2段重ねの本棚の上部が足の上に落ちてきた。もし本棚の下に頭部をおいて寝ていたら…

その頃から市内の公園にブルーシートテントが目立つようにな



(東京山谷で支援者の炊き出しカレーをかきこむおじさん)

る。近くの公園を散歩すると遊歩道から奥まった植込みに10メートルおきに青いテントが並び、空いてるベンチや縁石に座り歩く人と目をあわさずひたすら古新聞を覗きこむ無精ヒゲの

オジさん。

人間は仕事を介して社会とつながり、他者に助けられて多かれ少なかれ忙しくして生きている。

運命のイタズラでそんな社会的つながりの糸が切れ、引きこもる住居からも追い出された時、自分の力だけでは戻れない厳しい貧困生活に落ちてしまう。明日の自分に待ち受ける運命であるわけないと断言できるのか…？



(カレーや豚汁が定番メニューだが、あたたかいのがご馳走)

ブルーシートテントやおじさん達を見るたびに、ザワザワした落ち着かない気持ちにさらされた。

余談だが、小学生時代、青バナを垂らした子をよく見た。「汚いなあ」子供ごろにそう感じたが、貧しかった昭和30年代、栄養状態も悪く衛生面でもいい加減だったせいで蓄膿症にかかる子が多く青い鼻汁は膿(うみ)のせいだそうだ。



(支援グループの無料炊き出しを待ちこがれるおじさん達)

元に戻して、大阪でホームレスを目についていたころ、縁があつて東京に仕事場を借り月の何日か東京仮住まいが始まっていた。

東に行くと気持ちが変わり「何でも見てやろう」というふしきれた気持ちになれた。

タイミングよく、隅田川近くでホームレスの社会復帰を支援するボランティアグループの情報を目にし、思い切って連絡をしてみた。「どうぞ歓迎します！」とのことで師走の日曜日、(敬老室)という名のホームレスに無料で憩いの時間と場所を提供している施設を訪れた。(つづく)

東成区の昭和

(15) 給食



やふにらみ日記 (419) 東成の昭和

(16) 給食



東成区の昭和

(17) 給食



東成区の昭和

(17-1) 給食



やぶにらみ日記 東成の昭和

(18) 給食



ナニヤ
セイジ



(421)

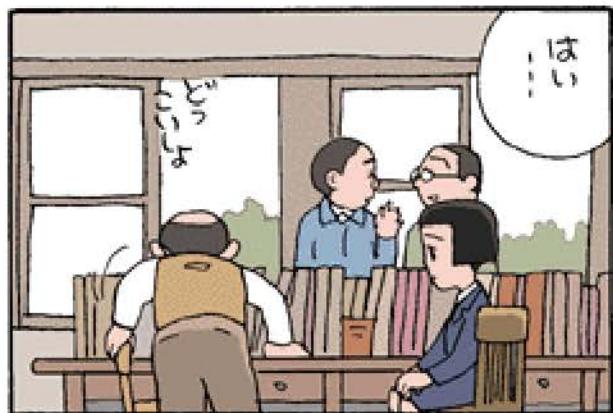
やふにらみ日記 東成区の昭和

(19) 給食



東成区の昭和

(20) 給食



東成区の昭和

(21) 給食



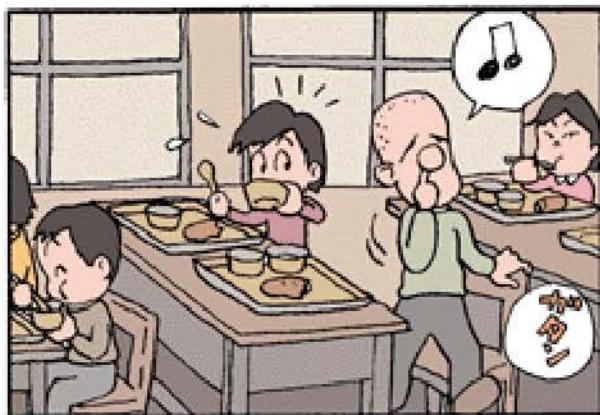
東成区の活動

(22) 給食



東成区の活動

(23) 給食



東成区の昭和

(24) 給食



東成区の昭和

(25) 給食



東成区の昭和

(26) 給食



やまとにらみ日記 (430)

(27) 給食

